

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立岩松小学校

1 自己評価書

教育目標 ふるさとを愛し、共に学び、未来を拓く岩松の子どもを育てる					
基本方針 本校は、創立152年目を迎える歴史と伝統のある学校である。校区は、自然、人材、文化環境に恵まれており、学校運営協議会との連携を図りながら教育活動を推進し、校訓「よく学び よく遊び やり通せ」を目指した教育活動を実践している。「ふるさとを愛し、共に学び、未来を拓く岩松の子どもを育てる」ために、「誠意・熱意・創意」を合言葉にして、学校・地域・保護者が一体となった地域とともにある学校づくりを推進する。					
本年度重点目標 1 確かな学力を育てる教育の推進 2 安全・安心で充実した教育環境の整備 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 特別支援教育の充実					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	後期のみ
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	B	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B	B
・保護者アンケート			B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○ねらいを明確にして分かる授業を実践することで、児童は進んで学習に取り組んだ。 ○地域の方の読み聞かせだけでなく、図書委員の児童による読み聞かせの取組もよかった。 ●振り返りが十分にできていない。 ●読書活動の充実に向けて、「みきゃん通帳」を活用したが、できている児童とできていない児童の差が大きい。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○振り返りシート等を作り、単元を通して振り返りが簡単に継続的にできるようにする。 ○家庭での読書活動の充実。みきゃん通帳を児童一人一人が定期的に活用できるように声掛けをする。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B
			・児童アンケート	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○児童に寄り添った対応を心掛けた。また、小さなことでも学級担任や管理職に伝えた。 ●きまりやマナーを守ることの大切さや意味を理解させながら取り組んできたが、まだまだ注意・指導する場面は多い。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○一人一人が相手の立場に立って考えて行動することを徹底して、日々の学校生活、集団活動に取り組みさせる。 ○自己肯定感や自己有用感が持てるような関りを継続して行う。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	②	働きやすい環境づくり 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	B	
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実 教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <p>○女性職員の働きやすい雰囲気がよい。用務員にも頼みやすい環境。スクールサポートスタッフが多いことも有難い。 ●計画的に取り組むことなど意識をしたが、毎月時間外勤務は月80時間を超えてしまった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○専門的な業務が多いので、優先順位をつけ効率的にやっていく。 ○学校地域協働活動推進員を有効活用し、地域人材を積極的に活用していけるように計画を練る。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
		・保護者アンケート	A		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○運営協議会の熟議では、地域の方や保護者のいろいろな考えを聞くことができた。 ●自身の学級の情報を、学級通信等で積極的に発信することがあまりできなかった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○学級通信の発行数を増やすのは現実的ではないので、それ以外の形で保護者に伝わるような方法を考え、実行する。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満